

登録コード	HM104800	開講年度	2026			
授業題目	寄生虫感染症学特別研究				担当教員	奥山 隆平 他
英文授業名	Research Thesis in Parasitology				副担当	野呂瀬 一美
単位数	10	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	備考	博士課程
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加					
	【研究科共通_2024年度以前加付対象】専門分野以外の課題を見渡し自身の研究課題の社会的意義を再認識する俯瞰力				広い視点から感染防御学の研究者としての素養を身につける	
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力				感染防御学分野の研究において、課題解決の方法を見出すことができるようになる	
(2)詳細 /Detailed information	日和見感染症を中心とした感染症に対する防御機構や、アレルギー、自己炎症性疾患の発症機構に関して、研究の実践、指導および論文作成の指導をおこなう。					
(3)授業の概要 /Overview of course	研究の実践、指導および論文作成の指導をおこなう。					
(4)授業計画 /Course plan	(教員未定) 自己炎症疾患の発症機序と新規診断治療法の開発を目指して、ヒト検体を用いた研究指導を行う。 (野呂瀬一美) 日和見感染症のマウスモデルを用いて、その防御機構と免疫抑制時の宿主免疫応答について、研究指導を行う。					
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	感染防御学研究の課題を設定しそれを解決することにより作成した論文により評価する。(i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	自分で問題点を見出し、関連研究の動向を常にフォローするなど積極的に取り組む。 教員とディスカッションして出された課題については、期限内に解決策の報告を行うこと。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡すること					
(8)授業の形式 /Course format	実習、演習					